

第56回 北九州市都市計画審議会

(審議概要)

(1) 会議の日時・場所 平成25年11月11日(月) 14:00～
 ホテルクラウンパレス小倉 2階

(2)出席した委員および臨時委員の氏名

	氏名	役職	出欠
1	赤川 貴雄	北九州市立大学国際環境工学部建築デザイン学科 准教授	○
2	池田 サエ子	北九州商工会議所女性会 副会長	○
3	伊藤 解子	北九州市立大学都市政策研究所 教授	○
4	伊藤 直子	西南女学院大学保健福祉学部 教授	○
5	乙間 末廣	北九州市立大学国際環境工学部環境生命工学科 教授	×
6	籠田 淳子	福岡県建築士会北九州支部 レディース部会長	×
7	齋藤 貞之	九州国際大学経済学部 特任教授	○
8	寺町 賢一	九州工業大学工学部建設社会工学科 准教授	○
9	中村 雄美子	NPO法人北九州子育て・親育ちエンパワメントセンターBee 代表	×
10	原田 美紀	原田・川原法律事務所 弁護士	○
11	久野 善隆	北九州市西部農業委員会 会長	×
12	福山 節子	福岡県不動産鑑定士協会北九州支部 不動産鑑定士	○
13	横山 麻季子	北九州市立大学法学部 准教授	○
14	三原 征彦	北九州市議会議員 議長(自由民主党)	×
15	桂 茂実	北九州市議会議員 副議長(公明党)	○
16	香月 耕治	北九州市議会議員 自由民主党	○
17	松井 克演	北九州市議会議員 ハートフル北九州	○
18	山本 眞智子	北九州市議会議員 公明党	○
19	石田 康高	北九州市議会議員 日本共産党	○
20	吉村 文雄	福岡県警察本部 交通部長	代
21	大庭 卓朗	北九州市自治会総連合会 副会長	○
22	松村 佐和子	北九州市女性団体連絡会議 会長	○

※ ○は出席、×が欠席、代は代理出席を表す。

(3)議事要旨

別紙のとおり

議題

付議事項

- (1) 議題第254号 北九州都市計画道路の変更について
浅野町愛宕線【小倉北区】
- (2) 議題第255号 北九州都市計画用途地域の変更について
浅野地区【小倉北区】
- (3) 議題第256号 北九州都市計画準防火地域の変更について
浅野地区【小倉北区】
- (4) 議題第257号 北九州都市計画道路の変更について
春の町陣原線ほか4路線【八幡東区】
- (5) 議題第258号 北九州都市計画第一種市街地再開発事業の変更について
小倉駅南口東地区第一種市街地再開発事業【小倉北区】
- (6) 議題第259号 北九州都市計画都市再生特別地区の変更について
小倉駅南口東地区【小倉北区】
- (7) 議題第260号 北九州都市計画下水道の変更について
東中島ポンプ場【八幡西区】

第 56 回北九州市都市計画審議会 議事要旨
(主な質問・意見と回答)

議題第 254 号 北九州都市計画道路の変更について (浅野町愛宕線)

議題第 255 号 北九州都市計画用途地域の変更について (浅野地区)

議題第 256 号 北九州都市計画準防火地域の変更について (浅野地区)

○確認・要望

3 件の議案のきっかけが新球技場なので確認しておきたい

1. 新球技場建設については市民の合意が前提である。
2. 新球技場建設に関する財政のあり方について、もっと市民、企業に募金等の協力を求めるべきだという立場から球技場計画は時期尚早ではないか。

●本市の考え

1. 市長の公約にもあるように 2 度立ち止まって、市民及び議会の意見をよく聞くというスタンスでやってきた。あわせて、公共事業評価委員会にも 2 度審議いただき、事業を進めてよいという評価をいただいた。加えて、市議会においてもたくさんの議論いただき、今回 9 月時点で事業実施の補正予算を議決いただいた。
2. 当初計画より施設の規模を見直し、また toto くじ事務局に 30 億円の助成金制度を作っていただいた。さらに、施設整備に向けて P F I 事業を計画している。このような内容を市民の皆様にお伝えしながら、また市民の皆様から募金などをいただきながら事業を進めていきたいと考えている。

議題第 257 号 北九州都市計画道路の変更について (春の町陣原線ほか 4 路線)

○質問

3. 今回、1,280m 路線を減らすと建設費がどの程度下がるのか。
4. 開通の予定はいつになるのか。
5. 春の町出入口の位置の検討案について、わかりやすく説明してほしい。

●回答

3. 約 100 億円建設費が下がると聞いている。
4. 完成までには工事着工後、約 10 年程度かかるため、平成 30 年代になるのではないかとと思われる。
5. ケース 1 は規定の計画通りに黒崎バイパスが整備された場合。春の町出入口から西本町一丁目交差点へ流入する交通量が少ないため交差点での交通に問題はない。
ケース 2 は路線の一部廃止により端末の中央町出入口が廃止された場合。春の町出入口が端末の出入口となり西本町一丁目交差点の交通量が増加し、交差点の処理が困難になる。
ケース 3 はケース 2 と同様に路線は一部廃止するが、春の町出入口の位置を変更し、西本町一丁目交差点に黒崎バイパスから下りてくる交通が入らないようにした場合。西本町一丁目交差点の交通量は処理可能となることを示している。

議題第 258 号 北九州都市計画市街地再開発事業の変更について (小倉駅南口東地区)

議題第 259 号 北九州都市計画都市再生特別地区の変更について (小倉駅南口東地区)

○意見書

6. (賛成意見)

- ・ 早期の都市計画決定、事業への着手を望む。
- ・ 再開発事業により駅周辺の利便性が向上し、地域が活性化することを期待する。
- ・ 小倉駅南口は小倉の玄関口なので、魅力あるビルが建てば随分印象が良くなる。

(反対意見)

- ・ 市道京町 16 号線 (以下、16 号線) の現位置での存続を要望する。
- ・ 16 号線を廃道するのなら、現在の位置に同じ幅員で館内道路をつくってほしい。
- ・ 17 号線、18 号線は今の計画案以上に拡幅してほしい。
- ・ 高層ビル建築に伴い、ビル風の影響、日照の問題が懸念される。

(その他)

- ・ ビル内に投票所を兼ねたコミュニティ施設の設置を強く要望する。

●本市の考え

6. (反対意見に対する考え)

- ・ 本事業の計画敷地の南側は、都市計画道路博労町線拡幅により、建物が建てられる奥行きが限定されるため、市道京町 16 号線の一部廃止はやむを得ないと考えている。なお、代替機能として再開発ビル 1 階に歩行者専用自由通路を設置する計画であり、都市計画図書に明記している。また、再開発ビル管理組合と市の間で管理協定を締結し、将来的にも市が責任を持って管理していく。
- ・ 17 号線、18 号線については、再開発事業とあわせて道路の拡幅を行う。
- ・ 強風の発生する可能性が高い歩道については高木植栽を施す予定である。また日照については影響範囲が全て商業地域内であり、特に問題はないと考える。

(その他意見に対する考え)

- ・ コミュニティ施設については市の関係部局と一緒に地元協議をしながら継続して検討を進めている。

○質問

7. 計画容積が収まるのであれば 900%のままでもよいのではないか。

●回答

7. 当初の容積率 900%をいったん基準の 500%に戻した上で、新しい計画に基づいて検討し、700%まで緩和したという考えで、審議いただいている。
- また、用途の見直し、施設規模の見直しを重点的に行ってきた結果、事業成立が可能な組み合わせが概ね今回の内容であった。高さ 95m、容積率 700%の範囲の中で事業採算が取れる計画にまとめていくことと考えている。

○質問

8. 歩行者専用の自由通路について、地元に対する今後の市の対応を含めて、そのあり方について、再度確認しておきたい。

●回答

8. 自由通路については、計画段階において都市計画図書に明記している。次に、事業認可の段階で、事業計画書の中に明記のうえ、事業としてきちんと設置する。さらに、再開発ビルができた段階で管理組合と市とで管理協定を締結して、市が管理する。これらの方針については、平成 19 年の都市計画決定時点と変わらず、今回も同じ方針を進めていく。

議題第 260 号 北九州都市計画下水道の変更について（東中島ポンプ場）

○質問・意見 なし